

# 主題単元に生きる言語技能学習の一方

—「青春のことばは、なぜ哀しいのか。」の場合—

加 藤 宏 文

はじめに

「国語Ⅰ」（AⅡ現代Ⅱ単位三クラス、BⅡ古典Ⅱ三単位三クラス）を担当している。本稿は、Aでの主題単元、(1) ことばは、青春をどう輝かすか。—につづく、(2) 青春のことばは、なぜ哀しいのか。—に拠る。これは、(3) 青春は、真実の前に、なぜ危ういのか。(4) 青春の足もとには、何があるのか。—を経て、今、(5) 青春は、ことばをどう輝かすか。—に至り、閉じめを迎えんとしている。

学習者のひとり、述べた。「作家とは、何と哀しい生き方をする人たちなのか。もっと別の生き方もあったらうに。」—聴きひたってみると、冷やかな傍観者である。ことばは、検索の対象にこそなれ、ひきずえられてはいない。知識や技能が、価値へと結びついて、生き抜く力を支えていない。学習者も、状況の中で「哀しい」のである。「哀しい」が「哀しい」と火花を散ら

す。そこに、ことばを通じての真の学力を培いつづけてみたい。検索された「哀しい」の一語をひきずえる。一般的な用法の含み持つ意味の図式を吟味する。さらには、教材の構造の中で位置が、確かめられ、そこでの独自性が、さきの吟味との接点でも、理解でき表現もできるか。さらには、自らの内実が、それに響き合うか。その音色は、独自のことも表現できるか。現行「指導要領」「国語Ⅰ—2内容（言語事項）中、「ウ 語句の意味、用法などを理解し、語彙を豊かにすること。」に相当するか。

中で、単元は、教科書（筑摩書房「国語Ⅰ」）所収の二つの教材を中心に、つぎのように展開される。（付表参照）(1) ことばの本質に「哀しさ」をみる。(2) 国木田独歩の「かわい」を、「哀しさ」に相対化させる。(3) 国木田独歩の「哀しさ」を確かめる。(4) 芥川龍之介の「切ない」を確かめる。(5) 「切ない」の理解を深める。(6) 単元主題について、学習の成果をまとめると進む。本稿は、中で、(4)・(5) を省みた報告である。

私の主題單元学習は、学習者の（表現）活動（理解を、確かめる・深める。つくる。）と私の指導助言「私のひと言」を、展開の軸とする。「表現」と「理解」との統合である。中で、「語彙を豊かにする」は、量としてよりも、むしろ質（価値）としての豊かさを求める。その目的は、こう重層的である。

- (1) 理解語彙としても、表現語彙としても、未知の語の意味を、習得する。
  - (2) これまでの学習や生活の中で、ある程度は理解されているが十分ではなく、表現語彙にも至っていない語の意味を、習得する。
  - (3) 他の語句による言いかえでは、習得されているようでも、文脈や文章構造、作品、作者とのかかわりでは、さらに深化や組織化を求められる語の意味を、習得する。
  - (4) 習得した語を活用して、主題單元学習の成果を論理的に表現し、他の語の意味の習得の基盤とする。
- そのためには、指導者には、学習者とともに單元主題をめざし、それに支えられての、教材の価値への透視・洞察力が、求められる。「一語」は、どのような選定条件を求めるか。
- (1) ことは通して生きぬく力を、とのねがいに直結する語である。
  - (2) 学習者の実態や発達段階に、即した語である。

(3) 教材（作品）構造の中で、表現者（作者）の価値の世界と、深く結びついた語である。

(4) 單元主題のもとに開発された各教材間で、有機的につながりを持ち合える語である。

右を念頭に、学習方法は、こう求められる。

- (1) ことはの本質に思いを致す。
- (2) 豊かな習得の必要性を、認識する。
- (3) 文・文章構造中の必然の語をみずえる。
- (4) 同じく、中での語の意味を分析総合する。
- (5) 類語などと比較し、語の意味を習得する。
- (6) 学習の成果を、論理的に表現する。

そこで芥川龍之介の「蜜柑」の場合を、こう実践する。

「蜜柑」の結末は、つぎのようである。

○暮色を帯びた町はずれの踏切と、小鳥のように声をあげた三人の子供たちと、そうしてその上に乱落する鮮やかな蜜柑の色と—すべてが汽車の窓の外に、瞬く暇もなく通り過ぎた。が、私の心の上には、切ないほどはつきりと、この光景が焼きつけられた。そうしてそこから、あるえたいの知れない朗らかな心持ちがわき上がってくるのを意識した。私は昂然と頭を挙げて、まるで別人を見るようにあの小娘を注視した。小娘はいつかもう私の前の席に返って、相変らずひびだらけの頬を萌黄色の毛糸の襟巻きに埋めながら、大きな風呂敷包みを抱えた手に、しっかりと三等切符を握っている。……………／私はこの時初めて、言いようのない疲労と倦怠とを、そうしてまた不可解

な、下等な、退屈な人生をわずかに忘れることができたのである。(傍点、加藤) (教科書の表記に従った。)

私は、かつて、「『羅生門』教材化の問題点」と題した報告をした。聴きひたってくださった大塚裕子氏は、後、「蜜柑」について、つぎのような自らの「着語」を寄せられた。

○生活していくことにおいては何よりも必要な、ある種の俗っぽい逞しさをいとい、やはりここでも芥川は、自分の傷つきやすい脆弱さをこそ、ちょっと楽しんでるような気さえたします。けれども一方で、ご発表(加藤注、加藤の発表)の折の先生の朗読を聞きつつ、娘のとった行為にではなく、その娘の行動に不意に心を動かされた芥川自身に対して、自分の胸にこみあげてくるようなものがあったのは、どういいうわけなのだろうと思ったりしております。／それにしても、照れることなく人間を肯定的に太く信頼したような教材がもっとほしいものだと思えます。(加藤注、傍点加藤) (一九八四・八・二二付書簡抄)

ここには、一つの鋭い教材透視の例がある。

主題単元に生きる言語技能学習の一方として、私たちは、どのような語へ、どのようにしぼり込むのか。私は、右の先学にも導かれ、私自身の「着語」の核である「切ない」に注目する。「蜜柑」は、「<sup>①</sup>絶望の声」、「<sup>②</sup>痛ましい努力」とも説かれる。だからこそ、私たちの「自分の胸にこみあげてくるようなもの」が、この「切ない」に凝縮されている。そこに、私たちは、「哀しさ」を「哀しさ」として受け止め、自らの力となる価値を見

る。

私は、この重い状況の中で、「絶望」的な位置にありつづける自身を、直視しているか。いや、傍観者になりさがってはいないか。「絶望」を「絶望」として直視しえたとき、人は、そこに真実の姿を垣間見て、「絶望」を超越するための口は口に立つ。どんなに「痛まし」くとも、生きぬく力を獲得した証である。芥川龍之介は、その心を「切ない」の一語に託した。単元主題「青春のことばは、なぜ哀しいのか」に、言語技能学習は生きる。

## 二

そこで、私たちは、学習をこう展開する。

第6時(付表参照) 芥川龍之介作「蜜柑」の「切ない」へ

(1) 範読(加藤)に聴きひたり、いちばん注目した一文を書き抜こう。

(2) その一文の中心語を指摘し、その一語を通して、「私」の心を説明しよう。

(3) 国語辞典で「切ない」の意味を確かめて、記しておこう。

(4) 「私」は、(イ) どんな心から、(ロ) どんな心を経て、

(ハ) どんな心になったのか。

(表現5) (付表参照) 右の(1)～(3)の記述。

「Aさんの表現」(1) あの霜焼けの手をつとのばして、勢いよく左右に振ったかと思うと、たちまち心を躍らすばかり暖かな日の色に染まっている蜜柑がおよそ五つ六つ、汽車を見送った子

供たちの上へばらばらと空から降ってきた。(2) 暖かな日の色、曇った日暮れ、うす暗いプラットフォーム、暗いトンネルの中、平凡な記事の夕刊と暗い色の心もちの作者の目の中に、暖かい明るい色の蜜柑がとびこんできた。今まで暗く沈んだ心の中が娘のあたたかい心と蜜柑によって少しなごむことができたことがわかる。(3) 苦しくてたまらない。

「私のひと言」主人公の置かれていた「景色」と「頭の中」の世界から(A)の転換が、正確にとらえられています。(3) を、もう少し詳しくして、これに重ねてみるとよいでしょう。

「B君の表現」(1) 窓から半身を乗り出していた例の娘が、あの霜焼けの手をつとのばして勢いよく左右に振ったと思うと、たちまち心を躍らすばかり暖かな日の色に染まっている蜜柑がおよそ五つ六つ、汽車を見送った子供たちの上へばらばらと空から降ってきた。(2) (暖かな) 主人公の不可解な下等な退屈な人生だと考える、暗く、寂しい心と対象的に暖かく明るい目に映った蜜柑が、主人公の心にそういう考えを忘れさせた。(3) からだがしめつけられるようになるらしい。

「私のひと言」(A)であることが、(B)を呼んでいるのですね。その(A)を、主人公は、(3)と見てとっています。そこから(B)と裏腹に、「朗らかさ」が生れていますよね。なぜでしょう。

「C君の表現」(1) 私はトンネルに入った瞬間汽車の走っている方向が逆になったような錯覚を感じながら、それらの索漠とした記事から記事へほとんど機械的に目を通した。(2) 逆一汽車の走っている方向が逆になったような錯覚というのは後戻り

していくような錯覚、すなわち先に進んでいくのが過去にさかのぼっていくという主人公の思いの変化。(3) (空白)

「私のひと言」ユニークな一点を、鋭くとらえています。右のような「錯覚」を前提にして、さて、どのような世界が、広がり深まっていますか。このユニークな入り口を深めていきましょう。

それぞれの学習者は、自らの「着語」を入り口にする。芥川の「切ない」が接点を見せ始める。(1) しめつけられるように苦しいことと、(2) こみあげてくる熱いもの―を重ね合わせる。学習の見通しが、具体的になる。そこで、私たちは、学習をこう展開する。

第7・8・9時 「切ない」が生み出していく心持ちを、構造の中でとらえる。

- (1) 「切ない」の基盤を、冒頭に読みとろう。
  - (2) 「小娘」を見る目は、どこで変質したか。
  - (3) 「わずかに忘れる」の意味を考えよう。
  - (4) 「が」がたぐ要素を確かめよう。
  - (5) 「そこ」からわき上がるすじ道を確かめよう。
  - (6) 「表現類語辞典」に学ぶ。
- 〈表現6〉(付表参照) 右の(6)の記述。
- 『表現類語辞典』には、「つらい」の見出しのもとで、「辛い」・「切ない」・「やるせない」・「たまらない」・「いたたまれない」・「やり切れない」・「悶悶」が、比較説明されている。中で、私たちは、こう学びとる。

A 自分の置かれてゐる立場

B 精神的な苦しさ

C 自分の主観的な感情

D 気持ちの満たされない度合

E その他、どれかひとつの形容詞と比較

〔表現6〕は、このAとEの記述である。

〔Aさんの表現〕A 仕事をしてもなにかやりがいがなく、自分の人生に自信がもてなくなり、疲れて家に帰るとき、列車の外の景色は、自分の心に似つかわしく暗く沈んだ景色である。B 言いようのない疲労と倦怠。C トネルの中の汽車と田舎者の小娘と平凡な記事にうまっている夕刊とが、不可解な下等な退屈な人生の象徴だと思ふこと。D 気持ちをなぐさめるためにみた夕刊が、気持ちに反して平凡な記事ばかりだった。E やるせないとの比較。やるせないは、思いをはらす手だてがないということだが、ここでの作者は、娘をみないように夕刊をみたり平凡な夕刊をみないためにむむつたりと、にげみちがある。ここでやるせないとまでは気持ちがいけない。

〔私のひと言〕A・B・C・Dの中から「切ない」が生れてきたのは、主人公の底に何があったからでしょうか。そして、「切ない」は、何を生みましたか。

〔B君の表現〕A 何をやってもうまくいかない社会の環境からのがれて自分一人の世界に入りこんでいる自分が、小娘たちの寂しいが心のあたたまり、何か、希望のある世界に完全にとけこめず、迷っている不安定な立場。B 寂しく、つらく、苦し

いことなのに、それにも負けじと頑張る小娘の姿と完全に自分の人生を捨てかけていた自分の姿との違いから、自分をなさげなく思う苦しさ。(C・D・E空白)

〔私のひと言〕Aに鋭い分析があります。そうであるからこそ、「切ない」は、大きな力となって新しいものを生み出すのですよ。

〔C君の表現〕A 何かおもしろくないと思われるような立場。

B 自分一人だけで悩んでいるという苦しさ。C 言いようのない疲労と倦怠。D かすかな心のくつろぎが感じとれる余裕が少しある程度。E 自分はいたたまれなさと少しよく似ていると思う。内容の心配や不安、恥づかしさでは違うかもしれないが、それ以上その場にじっとしていることができないというのが、胸がしめつけられるように苦しいに似ていると思う。

〔私のひと言〕Aが、上のような状況の中で何かを生む力になる点に、注目しましょう。

「切ない」は、構造の中でとらえられる。

### 三

しかしながら、私たちは、芥川における「切ない」に、積極的な価値をみすえたとは言えない。そこで、私たちは、同じ芥川の短編「東洋の秋」との比較を通して、考え深める。

第10時(付表参照)「東洋の秋」の作品構造と比較する。

(1) 「疲労と倦怠」を生んだものは、何か。

(2) 「疲労と倦怠」を、どう処理したいのか。

(3) 「小娘」と「寒山拾得」は、どう違うか。

(4) 結末のどちらに、価値をみてとるか。

ちなみに、「東洋の秋」は、こう結ばれる。

○ が、おれの心の中には、今までの疲労と倦怠との代わりに、何時か静かな悦びがしっとりと薄明く溢れてゐた。あの二人が死んだと思つたのは、憐むべきおれの迷ひたるに過ぎない。寒山拾得は生きてゐる。永劫の流転を聞しながらも、今日猶この公園の篠懸の落葉を掻いてゐる。／＼二人が生きてゐる限り、懐しい古東洋の秋の夢は、まだ全く東京の町から消え去つてゐないのに違ひない。売文生活に疲れたおれをよみ返らせてくれる秋の夢は。／＼おれは藤の杖を小脇にした俣、気軽く口笛を吹き鳴らして、篠懸の葉ばかりきらびやかな日比谷公園の門を出た。「寒山拾得は生きてゐる」と、口の内に独り呟きながら。

(現代日本文学全集による)

「Aさんの表現」(1) 買文生活 「蜜柑」には主人公がなぜ疲労・倦怠しているのかわからなかったが、ここでは、主人公が買文生活をうまくすることができないので、疲労倦怠しているのがわかる。(2) 出来たら――ここでは、その疲労と倦怠から抜け出すため、秋の匂の中に自分を浸すことができたらいのになど、自分の希望がかいてある。「蜜柑」には何もかいてない。(3) 娘が列車の中にとびこんできた部分 「蜜柑」では、娘を不可解な下等な退屈な人生の象徴として悪くみているが、ここでは、なにかその二人に対して発見した驚きの目でみている。

るように感じられる。(4) 「蜜柑」では娘の行動をみて思わずただけ疲労と倦怠を忘れただけだが、ここでは疲労と倦怠の代わりに静かな悦びがあふれてきたというようにもう疲労と倦怠をまったく忘れてしまつてゐる。そしてこの主人公がいざ寒山拾得を見習うとしても現代の主人公の境遇や世の中はそうさせてくれないだろう。

「私のひと言」(A) 逃避的ですよ。©に鋭い読みがあります。®と重ねると、むしろ、「切なく」でも「わずか」でも、本当の自分をつみつめる生き方に、可能性がありますよ。

「B君の表現」(1) 空しく、自分の考えを主張しきれず、たてまえばかりで生きている自分の人生への絶望。(2) 浸す この自分の寂しい気持ちを土の中に返してしまつて、新しい気持ちで人生を歩んでいきたいという気持ち。(3) 「小娘」が電車にかけこんできたシーン 全く、見た感じが反対で、小娘の方は、そうぞうしく、きたならしく、今の世の中を人に表したような感じだが、二人の男は、物静かで、自分の考えを貫き普通のわくの中では考えきれない感じ。(4) 「蜜柑」の方では、初めに想像していた小娘のイメージが、フツとした小娘の行動によつて初めと違う新鮮なイメージを抱くことによつて、疲労や倦怠がやわらげられたのに対し、「東洋の秋」では、出会った二人の男と寒山・拾得という人物とが、重なりあつて見え、その二人のことを思い出していると、なんかはげまされたように、自己を貫くことの大切さをわかり、自分の生き方を貫くという希望へとなつた。

「私のひと言」④は前向きではなく逃避的に表現されていますよ。⑤は、一見③につながっていますね。しかし、⑤であることは、現実の苦しさを改変してくれるでしょうか。「切ない」「蜜柑」の方に、生きぬく力の可能性を見ませんか、むしろ。「君の表現」①「のしかかっていた」というのは何か苦しいものにおさえつけられているように思われ、又、蜜柑の「落とされていた」という言葉がありそれはもう失ないかけた存在というように思われる。だから東洋の秋の「のしかかっていた」という言葉にはまだ救えるようなものがあると思います。(2)「出来たら」という言葉に「蜜柑」にはなかった作者の「望み」というものがあらわれていると思う。(3)「蜜柑」では下品の顔たちの服装が不潔な少女が車内に入ってきたところだと思ふ。そして両者は、「蜜柑」では、悪いほうに作者はとらえ、「東洋の秋」では寒山拾得のような人だとよい面で書かれている。(4)「蜜柑」にも「東洋の秋」にも希望というものができているが「蜜柑」には「わずかに忘れることができた」という言葉で元の状態にもどるかもしれない。又「東洋の秋」では「よみ返らせてくれる」というので、そのままの状態が続くかもしれない。

「私のひと言」① よく一語の持つ意味をおさえています。(2)望みは、どの方向に逃げていますか。(3)④は、しかし、現実を離れていますね。(4)「切なく」でも、現実を直視して生きぬく力をあたえるのはどちら？

私たちは、この比較学習を通して、「蜜柑」の「切ない」の孕

み持つ積極的な価値に、気づき始めた。たとえば、Aさんの(4)は、そのことを教えてくれる。私たちは、たとえ「気軽に口笛を吹き鳴らして」みたところで、所詮「寒山拾得は生きている」は、現実逃避のそれにすぎないと見る。逆に、「切なく」でも、まぎれもない現実の中に、「わずかに」ではあっても、現実を直視している芥川を見る。「切ない」の価値が、ほの見え始めた。

#### 四

もう一步を伐り拓き、「切ない」の一語の理解を深め、価値学習の成果を確かめたい。そこで、私たちは、つぎの二つの作品の中の「切ない」に聴きひたって、学習を展開する。

① 斎藤隆介作・岩崎ちひろ絵「花さき山」

② 草野心平作「秋の夜の会話」

二つの教材の該当部分は、こうである。

① (前略)きのう、いもうとの そよが、「おらさも みんなのように 祭りの 赤いべべ かってけれ」って、あしをドデバダして なくて おっかあを こまらせたとき、おまえはいったべ、「おっかあ、おらは いらねえから、そよサ かってやれ」 そう いったとき、その花が さいた。おまえはいえが びんぼうで、ふたりに 祭り着を かって もらえねえことを してたから、じぶんは しんぼうした。おっかあは、どんなに たすかったか！ そよは、どんなに よろこん

だか！おまえは せつなかつた べ。だども、この 赤い花が  
さいた。この 赤い花は、どんな 祭り着の 花もようより  
も、きれいだべ。ここの 花は みんな こうして さく。

(後略) (岩崎書店刊)

② 秋の夜の会話

さむいね／ああ さむいね／虫がいないね／ああ 虫がな  
いてるね／もうすぐ土の中だね／土の中はいやだね／痩せたね  
／君もずぶん痩せたね／どがこんな切ないんだらうね  
／腹だらうかね／腹とったら死ぬんだらうね／死にたくはないね  
／さむいね／ああ虫がいないね (『第百階級』)

〈表現8〉「切ない」を、ある国語辞典で引いてみると、

「「切なり」の変化」自分の置かれた苦しい立場・境遇を打開  
する道が全く無く、やりきれない気持ちだ。とある。この説  
明を、右の二つ (1) 花さき山 (2) 秋の夜の会話 に当  
てはめて、それぞれの世界を説明した上で、(3) 「蜜柑」の  
「切ない」と比べて、考えるところを述べなさい。

「Aさんの表現」(1) 切ない気持は美しい物になってその人の  
心の支えになる。つまり、切ない気持ちを原点にして苦しく辛  
い世界を少し忘れることができる。(2) 切ない気持ちは生き  
ている限りつきまとうものである。(3) (1) との比較 いや  
な気持ち少し忘れることができるというところが共通してい  
る。(2) との比較 蜜柑のいやな気持ちを少しは忘れられた  
が、またその気持ちにもどるところが切ない気持ちがつきま  
うに共通している。

「私のひと言」④で鋭くとらえた積極性と、⑤・⑥の一見消極的  
な表現とを、どのように統合しますか。

「B君の表現」(1) あまりにも自分の心がやさしいために、他の  
人のために自分を犠牲にしたが、たえるつらさを自分ではなく  
さめきれずに、そこから逃げる道も見つからない時、その心が  
花となって心を慰やしてくれる。(2) これから冬眠に入らな  
くしてはならない、つらいさみしい立場だが、そこから生まれるつ  
らい気持ちを土台にして、更にそれに負けないようにするとこ  
ろに、打開する道が見えてくる。(3) 「蜜柑」の切ないは、先  
の2つ(先の2つは、自分自身が身をもって感じたこと)と違  
って視覚から、切ないと感じている。またその視覚の映像が、  
もとあった自分の心と違うため、はっきりと残り、その映像か  
らぬけ出すことができないが、何が違った心を与えられたよう  
で、心地よい立場にある。

「私のひと言」④あやちゃんは、そのような「道」を求めたので  
しょうか。「つらさ」に「たえる」力があつたればこそではな  
いでしょうか。(2)の「蛙」の場合にとらえた積極性を、(1)に  
もあてはめてみましょう。⑤は、「蜜柑」の場合、逆とも言え  
ますよ。

「C君の表現」(1) 「花さき山」の切ないには「打開する道が  
無く」という言葉があたらなく、「花咲き山」にはあやは「や  
りきれない気持ち」はあるかもしれないが、その先に美しい世  
界というものがある。(2) 「秋の夜の会話」の中だけでは「切な  
い」の言葉があてはまるかもしれない。しかし最後の「ああ虫が

ないてるね」のあとに美しい世界があるかもしれない。(3) まわりにも自分と同じような立場の人がいて、その人を見て「打開する道が全く無くやり切れない気持ち」が少し減ったように思われている。

「私のひと言」④と⑤とは、どこがちがいますか、同じですか。そこを見定めて、⑥にいっそうの積極性をみつけてみましょう。

私たちは、第11時のこの学習を通して、つぎの二つのことをつきつめようとしてきた。

(イ) 「切ない」心が、美しい花を咲かせるわけ。

(ロ) 「切ない」心がなくなると、人は生きてはいられない。

これに比べて、Aさんは、(1)において、「支える」ことを「忘れる」ことと重ね合わせている。Aさんが、「切ない」に積極的な価値を認識するには、さらに、つぎの一步を伐り拓く、具体的な発問と、意欲をかきたてる新たな教材開発が、求められる。課題は、重い。

それに対して、B君は、(1)の中で、「慰やしてくれる」と表現するにとどまりながら、(2)においては、「打開する道」と、一步を伐り拓く糸口をつけることができている。Aさんとの比較は、それ自体教材として、尊い。

さらに、C君の場合は、(1)で、「その先」を見すえている。(2)においても、「切ない」の孕み持つ「力」を見ぬいている。しかし、「蜜柑」の「切ない」に引きつけられていないのが、残念ではある。どう引き上げるか。

主題単元学習「青春のことばは、なぜ哀しいのか」は、「切ない

い」の価値を伐り拓いたか。

おわりに

主題単元学習は、技能止まりを拒み、価値開きを目指す。主題単元「青春のことばは、なぜ哀しいのか」は、「哀しい」ことば・「切ない」に焦点をあてて、実践の中で、その目標に迫ろうとした。中では、「表現」活動が軸となり、開発された教材が、私の発問を得て、単元の推進力となったか。この三つが、私の授業構成力の柱であったはずである。省みて、それらにぬかりはなかったか。

「表現」活動は、学習者のそれと「私のひと言」から成る。まず、学習者の内実と教材とのナイーブな接点は、予期を許さない多様性を示す。私は、その多様性に聴きひたり、かき立てられて、私の内実を肥やして、学習に参画しなければならぬ。その中で、学習者の多様性と私の内実における価値とが、ぶつかり合い、整え合って、進むべき単元学習の道すじを明らかにしていく。聴きひたり方、ぶつかり具合が、まことに不十分であった。

教材開発は、右の「表現」活動に導かれて、ひとつひとつが必然でなければならぬ。必然を求めて、日常のことばの生活の中で、常に聴き耳を立てて、ことばを博搜しなければならぬ。芥川龍之介の「蜜柑」での価値学習が、なかなか深まらなかったのは、開発されるべき教材に、いっそうの柔軟性が求められていたからである。学習者もが直接に参加した教材開発活動が、「表

現」活動と一体となって、推進力を醸し出すべきでもあった。

発問は、右の二つの柱を、生かしも殺しもする。私は、学習者の「表現」と教材との双方に聴きひたることの中から、ぬきさしならない発問を創造しなければならない。「私の一言」自体すでに発問の役目をも担っているし、「表現」における私の「表現」こそは、発問の数々が凝縮されたものであったはずである。言語の技能と価値との統合を求めて、技能の側から主題単元学習を展開するのに、私の発問は、相互の関連を欠いていた。

注 (1) 拙稿「主題単元学習の構築——「文明は、何をもちたらし

たか」の場合——」（「国語教育」第2号）等

(2) 拙著「高校文章表現指導の探究」（溪水社刊）

(3) 拙論「『羅生門』教材化の問題点」（一九八四・七・二七、於大阪府立科学教育センター、報告）

(4) 平岡敏夫「芥川龍之介——抒情の美学」（大修館書店刊）

(5) 藤原与一・磯貝英夫・室山敏昭編「表現類語辞典」（東京堂出版刊）

(6) 主題単元学習の体系については、近刊の拙著「高等学校私の国語教室——主題単元学習の構築」（右文書院「教え方叢書別巻六」）を参照されたい。

（一九八八・一・一四記）

（大阪府立池田高等学校教諭）

〈付表〉  
主題單元「青春のことは、なぜ哀しいのか。」学習内容

時	目 標	教 材	内 容
1	○ ことばの「哀しさ」を理解し表現する。	(1) 斎藤隆介作「ひさの星」(岩崎書店) (2) 田村隆一の詩「帰途」	(1) 心に残ったことばをとらえ、記述する。 (2) 作者の逆説表現の理由を、説明する。 〈表現1〉
2	○ 一語を通して思いを理解し表現する。	○ 国木田独歩作「画の悲しみ」 (教科書所収筑摩書房「国語I」)	(1) 思いが急変している箇所前後二文を、書きぬく。 (2) 一語の世界を、説明する。 〈表現2〉
3	○ 文章構造の中の一語を理解し表現する。	○ 同右	(1) 「急変」の狭間を、分析する。 (2) 「かわいい」の一語を、説明する。 〈表現3〉
4	○ 語と語との関係を理解し表現する。	(1) 同右 (2) 国木田独歩作「忘れえぬ人々」 (現代日本文学全集)	(1) 「暗愁」から「かわいい」をとらえ直し、説明する。 「雰囲気」・「立場」・「発見」をとらえる。 (2) 「哀情」と「人懐かしさ」とのつながりを理解し、表現する。 〈表現4〉
5	○ 同 右	○ 同右(2)	(1) 「哀情」と「人懐かしさ」とのつながりを理解し、表現する。 〈表現4〉
6	○ 一語を通して思いを理解し表現する。	○ 芥川龍之介「蜜柑」(教科書所収)	(1) 心に残ったことばをとらえ、記述する。 (2) 「切ない」の意味を、辞書で調べる。 〈表現5〉
7	○ 同右	○ 同右	(1) 「小娘」を見る目の変質をとらえ、説明する。 (2) 「わずかに忘れる」の理解を深める。 〈表現6〉
8	○ 一語の理解を深め表現する。	○ 同右	(1) 「切ない」が生み出していく心持ちを、構造の中で理解する。 (2) 「切ないほどはつきり」の理解を深める。 〈表現7〉
9	○ 類語とのかわりて理解を深める。	○ 「表現類語辞典」(藤原与一・磯貝英夫・室山敏昭編 東京堂出版)	(1) 「辛い」・「やるせない」・「たまらない」などと比べ、「切ない」を説明する。 〈表現8〉
10	○ 作品構造を比べ理解を深め表現する。	○ 芥川龍之介作「東洋の秋」 (現代日本文学全集)	(1) 作品構造の類似性を確かめ、内容の相違を分析し、理解を深め、表現する。 〈表現7〉
11	○ 一語の理解を深め表現する。	(1) 齋藤隆介「花咲き山」(岩崎書店) (2) 草野心平の詩「秋の夜の会話」	(1) 二つの「切ない」が提起する問題点を理解する。 (2) 「蜜柑」の「切ない」を説明する。 〈表現8〉
12	○ 学習過程を整理し、まとめ表現する。	○ ④または⑤、⑥、⑦または⑧	(1) 指示された書き出し四段落から成る四〇〇字表現をまとめ、理解を確かめる。 〈表現9〉
13	○ 到達度を確かめる。	○ ④と⑥	(1) 「かわいい」と「切ない」との理解を確かめる。 〈表現10〉